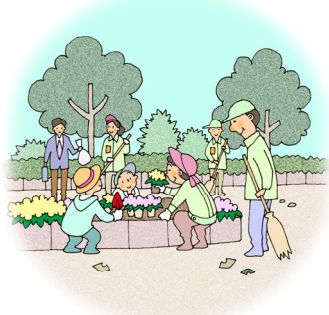


# 第3次小金井市環境基本計画

# 【概要版】



緑・水・  
生きもの・人…  
わたしたちが  
心豊かにくらすまち  
小金井

## 小金井市

▶▶▶ 将来のよい環境は、市民や事業者の皆さんと協働で守り・つくっていくものであり、その目指すところを共有することが重要であるとの考えから、小金井の将来の環境の姿を「緑・水・生きもの・人…わたしたちが心豊かにくらすまち小金井」と設定し、そのイメージをイラストで分かりやすく示しました。

# 第3次小金井市環境基本計画とは

- ▶ 「小金井市環境基本条例」に基づき、本市の環境保全の目標や取組の方向性を定め、市、市民、事業者等のあらゆる主体が、環境保全に取り組んでいくための計画です。
- ▶ 本市を取り巻く社会情勢や、国などの環境行政の最新動向を考慮し、環境関連の個別計画や、関連する諸計画との整合を図りながら、策定しました。
- ▶ 計画の期間は、令和3年度～令和12年度の10年間です。

## 【参考】近年の環境行政を取り巻く動向

- ・ 国内の地方公共団体、企業、市民団体等により **SDGs（持続可能な開発目標）** が積極的に推進されており、SDGs と環境施策との関係を意識していく必要があります。
- ・ 気候変動に関し、世界共通の長期目標として、産業革命前からの気温上昇を 2℃未満に保つとともに 1.5℃に抑える努力を追求し、**2050（令和32）年までに CO<sub>2</sub> 排出実質ゼロとする「脱炭素社会※」** を目指す動きが加速しています。
- ・ 生物多様性に関し、2050（令和32）年までに「自然と共生する世界」を実現するため、地方公共団体には地域の自然条件に応じて、**生物多様性保全の社会的な浸透（主流化）** が求められています。



出典：国際連合広報センターホームページ

※ 脱炭素社会…温室効果ガス排出が実質的にゼロとなる社会

## 将来の環境像

- ▶ 将来のよい環境は、市民や事業者の皆さんと協働で守り・つくっていくものであり、取組を進める市民、事業者、市が、その目指すところを共有することが重要です。
- ▶ このような考えから、本計画では、小金井の将来の環境の姿を「**緑・水・生きもの・人…わたしたちが心豊かにくらすまち小金井**」と設定し、そのイメージを分かりやすく示しました。

### 緑・水・生きもの

小金井の環境を構成する基本要素で、心豊かに暮らす基盤であり、生物多様性や自然循環を重視します



### 人

緑・水・生きものから様々な恵みを受用していることを自覚し、それらを保全・再生・創造していきます



### わたしたちが

環境教育・学習を通じて各主体が絆を深めて、連携・協働することにより、環境を保全・再生・創造していきます



### 心豊かにくらすまち

環境からの恵みを受け、環境を育むことにより、物質だけでなく心の豊かさを大切にします。自然とふれあえる低炭素で循環型のライフスタイルを目指し、心豊かに暮らしたいという願いを実現できるまちにしています



# 計画の体系

## 全ての施策を進める上で重要な「計画推進の基盤づくり」を位置付け

- ▶ 全ての環境施策を進める上で、環境教育・学習や主体間（市民、事業者、市）の連携・協働が重要であるため、これらに関する項目を「計画推進の基盤づくり」として位置付けました。

⇒ 本編第3章「3. 計画推進の基盤づくり」参照

## 本市の持続可能な発展への貢献をSDGsで説明

- ▶ 計画の推進が本市の持続可能な発展に貢献することを分かりやすく伝えるため、SDGs（持続可能な開発目標）の169のターゲットを本市の社会・環境を踏まえた表現に“翻訳”した上で、基本目標と関連性のあるSDGsとの関係を示しました。

⇒ 本編第3章の各基本目標「関連するSDGs」参照

## 環境の状態や取組の進捗を把握する指標を設定

- ▶ 本市の環境がよりよい方向へ向かっているかどうかを把握・評価していくため、基本目標ごとに〈環境指標〉を設定するとともに、主な取組の進捗を把握するための〈取組指標〉を設定しました。

⇒ 本編第2章「4. 計画策定の方針/進行管理のための指標の設定」

本編第3章各基本目標の「目指すべき環境の目標」「取組目標」

本編第4章「3. 指標・目標一覧」

参照

基本目標等		基本施策
<b>計画推進の基盤づくり</b> 		<b>基盤1 環境教育・環境学習</b> ▶ 学習の場・機会の創出 / 担い手の創出 <b>基盤2 環境活動</b> ▶ 市民協働体制の強化 / 場・人材・情報のネットワーク化 <b>基盤3 情報発信・共有</b> ▶ 効果的な情報発信 / 環境情報の共有
<b>基本目標 1</b> みどりを守り、つくり、育てる  	1.1 みどりの保全 1.2 みどりの創出 1.3 みどりをはぐくむ市民活動の促進	
<b>基本目標 2</b> 地下水・湧水・河川の水循環を回復する 	2.1 地下水・湧水・河川の保全 2.2 河川環境の保全 2.3 水資源の有効利用	
<b>基本目標 3</b> 都市の生物多様性を守り親しむ  	3.1 生物多様性の保全 3.2 自然とのふれあいの推進	
<b>基本目標 4</b> 安全・安心で健康に暮らせる生活環境を守る  	4.1 大気汚染や騒音などの公害発生源対策 4.2 環境のモニタリングやコミュニケーション	
<b>基本目標 5</b> 美しく住み心地のよいまちを守る 	5.1 景観の保全・活用 5.2 美しいまちなみの維持	
<b>基本目標 6</b> 3R推進で循環型のまちをつくる  	6.1 発生抑制を最優先とした3Rの推進 6.2 安全・安心・安定的な適正処理の推進	
<b>基本目標 7</b> エネルギーを賢く使い、低炭素なまちをつくる   	7.1 家庭・事業所における低炭素化の推進 7.2 移動における低炭素化の推進 7.3 気候変動適応策の推進	

# 3つの基盤施策とその波及イメージ

## 基盤1 環境教育・環境学習

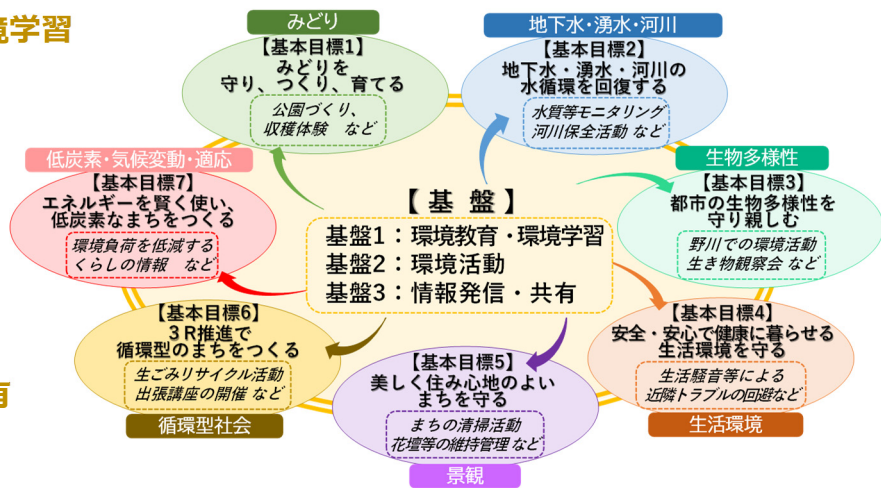
- ▶ 学習の場・機会の創出
- ▶ 担い手の創出

## 基盤2 環境活動

- ▶ 市民協働体制の強化
- ▶ 場・人材・情報のネットワーク化

## 基盤3 情報発信・共有

- ▶ 効果的な情報発信
- ▶ 環境情報の共有

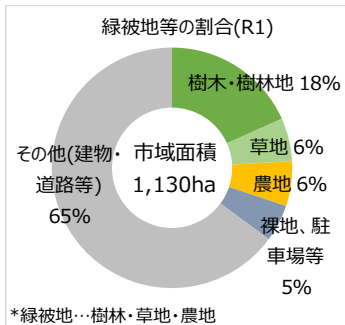


# 基本目標ごとの取組

## 基本目標1 みどりを守り、つくり、育てる

### < 現状・課題 >

- ・国分寺崖線（はけ）、野川、玉川上水、公園、社寺林、屋敷林、農地など様々なみどりが存在し、景観・癒し・生き物のすみか、防災などの多面的機能を発揮しています。
- ・みどりの量を測る指標である緑被率は減少傾向にあります。（平成21年度：33.7% ⇒令和元年度：30.2%）
- ・現状のみどりの保全と新たな創出を両輪で進め、みどりの多面的機能の維持・向上を図っていくことが重要です。



野川のみどり



まちなかのみどりである農地

### < 展開する取組 >

### 1.1 みどりの保全

- ▶ まちなかのみどりの保全
- ▶ 農地の保全・活用

### 1.2 みどりの創出

- ▶ 公園・緑地の創出・活用
- ▶ みどりのまちなみの創出

### 1.3 みどりをはぐくむ市民活動の促進

- ▶ みどりを知り、親しむ機会の創出
- ▶ 協働による活動の推進



市民ボランティアによる活動例

### < 環境指標及び目標 >

環境指標	現状 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
緑被率※1	30.2%	28%
緑の豊かさ（樹林地、街路樹、公園等）に関する満足度	71.8%※2	80%

※1 樹木・樹林地、草地、農地の割合であり、市内のみどりの量を測る指標として設定。今後予測されるみどりの減少をできるだけ抑制する  
 ※2 市民アンケート調査（令和元年度）において「満足」又は「やや満足」と回答した割合

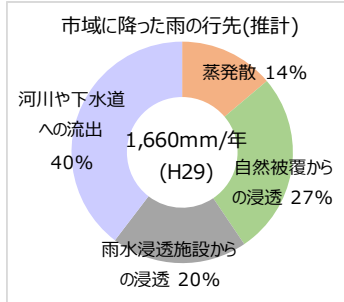
## 基本目標2 地下水・湧水・河川の水循環を回復する

### < 現状・課題 >

- 地下水位や、河川・地下水の水質は安定しており、良好な水環境が維持されています。
- 本市は以前より、住宅地などにおける雨水浸透ます(右)の普及を進めており、全国的にも認知されています。
- また、雨水が一度に河川へ流出することによる水質悪化や増水を防ぐため、雨を溜めて使う取組も重要です。
- 年間降雨量の約4~5割<sup>※</sup>が、自然被覆地や雨水浸透施設を介して地下水系へ浸透し、隣接自治体も含めた水循環の健全化に寄与しています。
- 農地などの宅地化や、雨の降り方の変化も踏まえ、引き続き水循環・水環境の保全を進めることが重要です。



雨水浸透ます(上)と雨水タンク(右)の設置例



※ 詳細は「地下水及び湧水の保全・利用に係る計画」の水収支推計を参照

### < 展開する取組 >

#### 2.1 地下水・湧水の保全

- ▶ 地下水・湧水等のモニタリング
- ▶ 住宅地等における雨水浸透の促進
- ▶ 開発事業等における地下水への影響の未然防止
- ▶ 崖線をはじめ湧水源となるみどりの保全

#### 2.2 河川環境の保全

- ▶ 水質汚濁の発生防止
- ▶ 水辺に親しめる機会の充実
- ▶ 流域単位での他自治体等との連携

#### 2.3 水資源の有効利用

- ▶ 日常生活における雨水利用や節水の推進
- ▶ 災害時における水資源の活用

### < 環境指標及び目標 >

環境指標	現状 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
市内の地下水位	過去10年間でほぼ一定	現状から低下しない
湧水の水量	全地点の合計 <sup>※1</sup> : 870L/分	現状から減少しない
野川の水質	DO: 8.6~9.1mg/L BOD: 0.5mg/L	全地点・回で河川水質環境基準(A類型相当)を達成
湧水の水質 <sup>※2</sup>	硝酸性窒素: 5.27~7.72mg/L トリクロロエチレン: 定量下限値未満 テトラクロロエチレン: 定量下限値未満... 等	全ての地点・回で地下水環境基準を達成

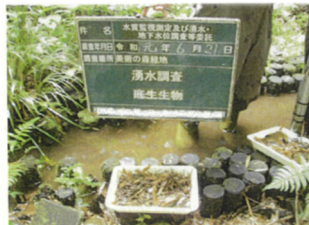
※1 現状の地点数は4地点

※2 項目は一部省略(詳細は本編参照)

## 基本目標3 都市の生物多様性を守り親しむ

### < 現状・課題 >

- 市内には野川、国分寺崖線、農地などの自然環境を基盤とする生態系が成立していると考えられます。
- 野川や湧水の生きもの調査が行われていますが、生きもの情報の収集や発信が十分とはいえず、生物多様性の全体像が把握しづらい状況です。
- 生きものの実態把握や、生物多様性への関心を高めるための取組を進めていくことが重要です。



湧水の底生生物調査

### < 展開する取組 >

#### 3.1 生物多様性の保全

- ▶ 生物多様性に関する実態の把握
- ▶ 生き物の生息・生育環境の保全・創出
- ▶ 外来種対策の推進

#### 3.2 自然とのふれあいの推進

- ▶ 自然について知る機会の創出
- ▶ 自然と親しめる機会の創出

### < 環境指標及び目標 >

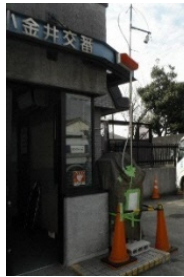
環境指標	現状 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
生物多様性の認知度	—	75%
生き物との親しみやすさに関する満足度	44.8% <sup>※</sup>	55%

※ 市民アンケート調査(令和元年度)において「満足」又は「やや満足」と回答した割合

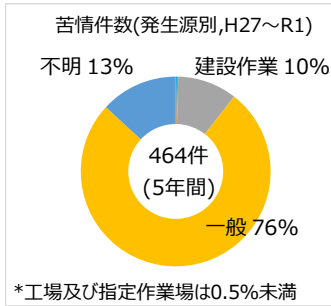
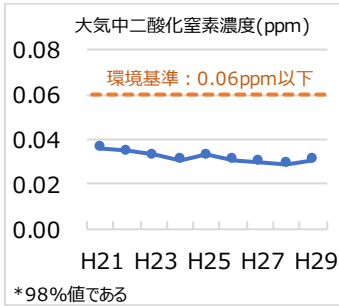
## 基本目標4 安全・安心で健康に暮らせる生活環境を守る

### < 現状・課題 >

- ・大気質や騒音の測定結果は、環境基準をおおむね達成しており、良好な状態です。
  - ・毎年 50 件以上報告される公害苦情は、典型公害※より、音響機器、ペット、樹木の枝張など生活由来のものが多い傾向にあります。
  - ・発生源対策に加え、住民の話し合いやルールづくりによる未然防止のための取組も重要です。
- ※ 大気、騒音振動、水質汚濁、悪臭など



大気環境調査



### < 展開する取組 >

#### 4.1 大気汚染や騒音などの公害発生源対策

- ▶事業活動等における公害の発生防止
- ▶自動車由来の騒音や排気ガス等の低減
- ▶農薬・化学物質・その他の環境汚染物質対策

#### 4.2 環境のモニタリングやコミュニケーション

- ▶大気汚染や騒音などの継続的な環境モニタリングと情報発信
- ▶安全・安心のための話し合いやルールづくり

### < 環境指標及び目標 >

環境指標	現状 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
大気環境基準等の達成状況※1	二酸化硫素：達成 (0.016 <sup>※2</sup> ppm) 浮遊粒子状物質：達成 (0.043 <sup>※2</sup> mg/m <sup>3</sup> ) …等	各項目について環境基準等を達成
道路交通騒音に関する環境基準の達成状況	①五日市街道・小金井街道・東八道路 ②連雀通り・新小金井街道 →①…昼夜間ともに達成 ②…昼間のみ達成	全地点で昼夜間ともに環境基準を達成

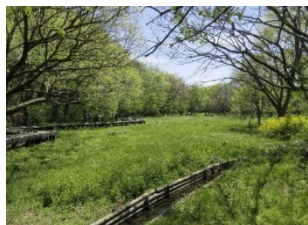
※1 項目は一部省略(詳細は本編参照)

※2 平成30年10月5日までの値(以降欠測)

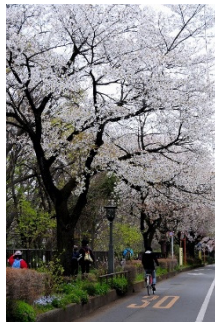
## 基本目標5 美しく住み心地のよいまちを守る

### < 現状・課題 >

- ・国分寺崖線・野川・仙川のみどりや水辺、公園や散策路、文化的価値のある玉川上水や名勝「小金井(桜)」などは、代表的な景観資源であり、未来へ引き継ぐことが大切です。
- ・まちなかでは、環境美化サポーターとの協働による美化活動など、美しいまちなみの維持に努めていくことが重要です。



野川公園のみどり(自然観察園)



名勝 小金井(桜)

### < 展開する取組 >

#### 5.1 景観の保全・活用

- ▶景観保全・創出に係る取組の実施
- ▶景観資源を活用する取組の充実

#### 5.2 美しいまちなみの維持

- ▶美しいまちなみの維持
- ▶まちの魅力向上



花壇ボランティアによる活動

### < 環境指標及び目標 >

環境指標	現状 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
まちの美しさ(景観、調和等)に関する満足度	45.5%※	55%

※ 市民アンケート調査(令和元年度)において「満足」又は「やや満足」と回答した割合

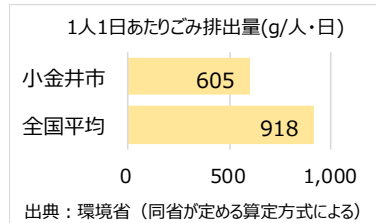
## 基本目標6 3R推進で循環型のまちをつくる

### < 現状・課題 >

- 平成18年に「ごみ非常事態宣言」を出し、ごみ減量に積極的に取り組んできました。1人当たりごみ排出量は全国平均と比べてかなり少ない状況です<sup>※1</sup>。
- 新たな可燃ごみ施設<sup>※2</sup>が供用開始しました。今後人口が増加してもごみが増えないよう、引き続き3Rの推進が必要です。

※1 同じ人口規模の自治体との比較では最も少ない(平成30年度)

※2 小金井市・日野市・国分寺市の共同処理のために設立した、浅川清流環境組合の可燃ごみ処理施設(立地は日野市内)



### < 展開する取組 >

#### 6.1 発生抑制を最優先とした3Rの推進

- ▶ 日常生活における3Rの徹底
- ▶ 分別・減量を徹底する啓発活動の強化
- ▶ 事業活動における3Rの推進

#### 6.2 安全・安心・安定的な適正処理の推進

- ▶ 地域と連携した収集・運搬の推進
- ▶ 適切な処理・処分の推進
- ▶ 廃棄物処理を支える体制の確立

### < 環境指標及び目標 >

環境指標	現状(令和元年度)	目標(令和12年度)
市民1人1日当たりの家庭系ごみ <sup>※</sup> 排出量	369 g/(人・日)	355 g/(人・日)以下

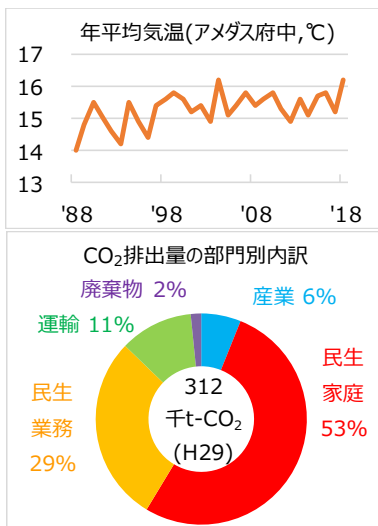
※ 家庭系ごみ…燃やすごみ、燃やさないごみ、プラスチックごみ、粗大ごみ、有害ごみ

## 基本目標7 エネルギーを賢く使い、低炭素なまちをつくる

### < 現状・課題 >

- 本市周辺の年平均気温は上昇傾向です。近年は、集中豪雨や猛暑が毎年のように発生しています。
- 市の二酸化炭素排出量<sup>※</sup>は近年減少傾向ですが、「2050年脱炭素社会」実現に向け一層の削減が求められます。
- 特に排出量が多い家庭部門では、家屋の低炭素化などのハード対策や、環境負荷の少ない商品・サービスを選ぶ「COOL CHOICE」が必要です。
- また、集中豪雨や猛暑など気候変動の影響に適応する取組も進めていく必要があります。

※ 本市では温室効果ガス排出量の大半が二酸化炭素



### < 展開する取組 >

#### 7.1 家庭・事業所における低炭素化の推進

- ▶ 建物の低炭素化の促進
- ▶ 機器・設備の低炭素化の促進
- ▶ 低炭素化につながる行動・活動の普及促進

#### 7.2 移動における低炭素化の推進

- ▶ 交通手段の転換の促進
- ▶ 自動車の低炭素化の促進

#### 7.3 気候変動適応策の推進

- ▶ 気候変動適応に関する普及啓発
- ▶ 気候変動による影響の把握
- ▶ 暑熱対策の推進
- ▶ 災害対策の推進

### < 環境指標及び目標 >

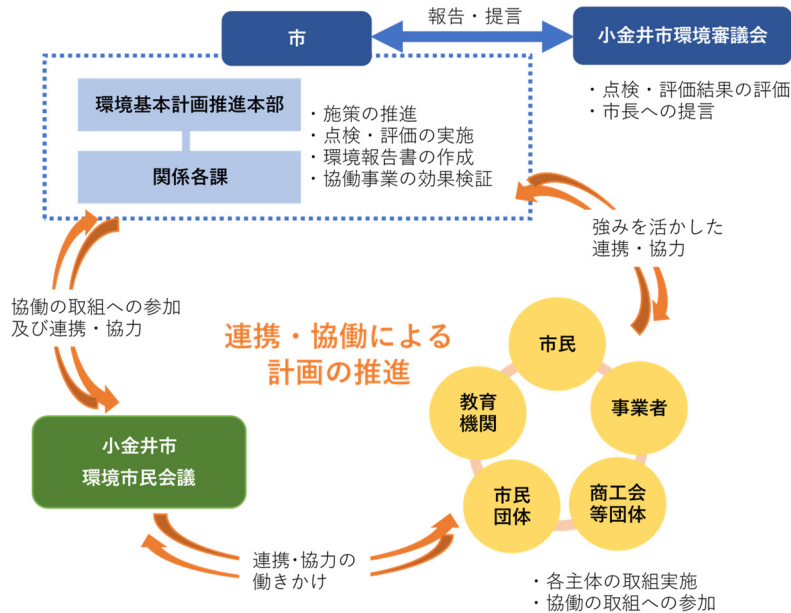
環境指標	現状(令和元年度)	目標(令和12年度)
市内の温室効果ガス排出量	341.0 千t-CO <sub>2</sub> <sup>※1</sup>	260.6 千t-CO <sub>2</sub> (平成25年度比26.0%削減)
市内のエネルギー消費量	3,437 TJ <sup>※1</sup>	2,829 TJ (平成25年度比17.0%削減)
意識調査における「適応」の認知度	市民25.3% 事業者25.6% <sup>※2</sup>	市民、事業者ともに50%以上

※1 平成29年度の値

※2 地球温暖化対策地域推進計画改訂に係るアンケート調査(令和元年度)において「意味を含めて知っていた」と回答した割合

# 計画の推進体制と進行管理

- ▶ 「小金井市環境審議会」及び「環境基本計画推進本部（市）」により施策の進捗を点検・評価し、次年度以降の展開につなげます。
- ▶ 市や市民、市民団体、事業者、教育機関等の各主体の連携・協働により取組を進めます（左下図）。
- ▶ 環境の状態や取組進捗を把握する「指標」を設定して計画の進行管理を行い、「小金井市環境報告書」により取組の進捗や各種調査結果を公表します。



## ～ 参加・体験してみませんか？ ～

- ▶ 気軽に参加・体験できる環境保全の取組をいくつかご紹介します※。これ以外にも様々な活動がありますので、更に詳しく知りたい方は、ホームページで検索していただくか、環境政策課までおたずねください。（右のQRコードからも確認できます）
- ※ 令和3年3月現在の情報に基づくものです。



### クリーン野川作戦

野川の清掃と自然観察を兼ねた環境保全活動であり、毎年200名前後の参加があります。



### 環境施設見学会

日野市内に立地する3市共同（小金井市・日野市・国分寺市）の可燃ごみ処理施設など、環境施設を見学します。



### こがねい環境フォーラム

体験学習や環境保全等の団体の活動紹介などを行っており、団体同士の交流の場にもなっています。



第3次小金井市環境基本計画  
概要版  
（令和3年3月発行）

問合せ先：小金井市環境部環境政策課 環境係  
住 所：〒184-8504 東京都小金井市本町六丁目6番3号  
TEL：042-387-9817 / FAX：042-383-6577 / E-mail：s040199@koganei-shi.jp  
市ホームページ：http://www.city.koganei.lg.jp